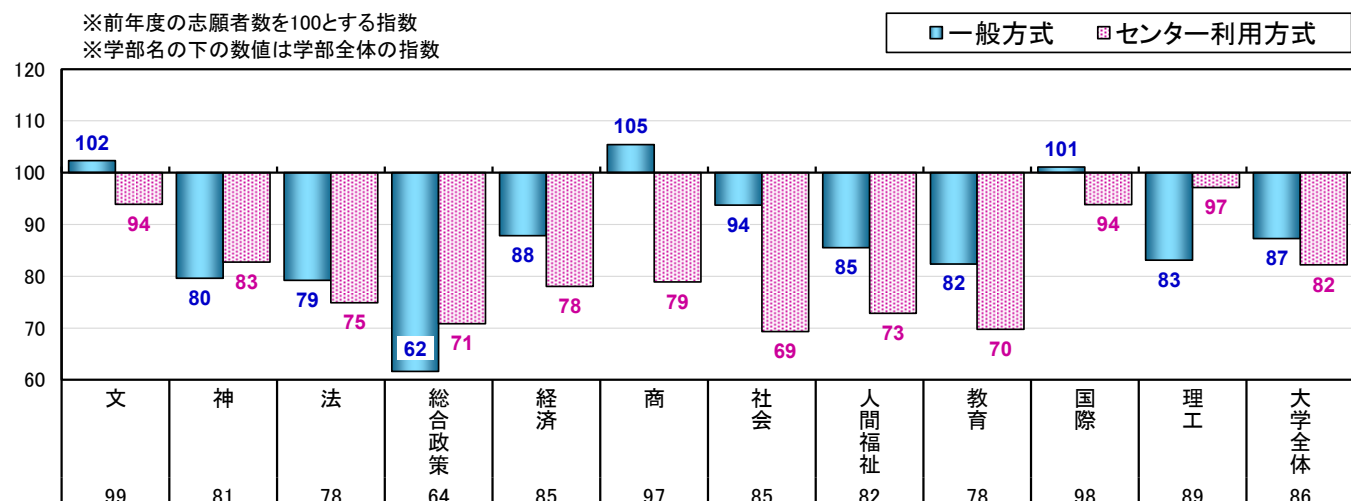


2020 年度入試状況分析【私立大】

関西学院大：全学部減少で大学全体では3年連続減少 一般：-3,241人 センター：-2,376人



入試変更点

新規実施：理工<セ・全学科共通数学併用型><セ・1月5科目型><セ・3月4科目型>
(先進エネルギーナノ工)<英数型>

募集人員：理工(化学)<英数型、セ・数学併用型>…各3人→2方式合計で8人、<セ・3月>…3人→2人
(物理)<セ・数学併用型>…3人→4人、<セ・3月>…4人→2人
(生命科学)<セ・3月>…6人→4人
(情報科学)<学部個別>…13人→14人、<セ・3月>…3人→2人
<英数型>…4人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で8人
(数理科学)<英数型>…5人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で9人
(人間システム工)<英数型>…4人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で8人、
<セ・3月>…3人→2人
(先進エネルギーナノ工)<セ・数学併用型>…3人→<英数型>との合計で8人、
<セ・1月>…7人→6人、<セ・3月>…4人→2人
(環境・応用化学)<一般・英数型>…4人、<セ・数学併用型>…3人→2方式合計で8人、
<セ・3月>…3人→2人
(生命医化学)<セ・3月>…6人→4人

入試科目：理工(化学)<セ・3月6科目型>…理2(物+化)→理2(物 or 化 or 生 or 地学から2科目選択)
(情報科学)(数理科学)<セ・1月5科目型(理科2科目)>…理1→理2
(数理科学)<セ・3月6科目型>…理1→理2

配点：理工(数理科学)<一般・全学日程>…数200点→150点

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、5,617人(86)の減少で3年連続減少。方式別でも一般方式(87)、センター利用方式(82)のいずれも3年連続減少。センター利用方式は、理工で新規実施方式があったが、大幅減少となった。学部別では、全学部が減少し、11学部中7学部が志願者数15%以上の大幅減少。

<一般方式>

- 文(102)は、微増だが3年ぶりに増加。学科別では、(総合心理科学)(170)は大幅増加したが、他の2学科は減少。
- 法(79)は、系統への人気低下から大幅減少し、2年連続減少。学科別では、(政治)(71)が2年連続大幅減少、(法律)(82)も大幅減少で3年ぶりに減少。
- 総合政策(62)は、3年連続増加の反動と系統への人気低下で大幅減少。5方式全てが反動で減少し、<学部理系>(88)以外の4方式は大幅減少。
- 経済(88)は、系統への人気低下で2年連続減少。方式別では、<学部理系>(138)が大幅増加、<英数型>(58)は大幅減少。
- 商(105)は、系統への人気低下がある中でやや増加。方式別では、<英数型>(98)のみ微減。
- 社会(94)は、系統への人気低下からやや減少し、3年連続減少。3方式全てが減少。
- 人間福祉(85)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。3学科全てが2年連続減少し、特に(社会起業)(68)は2年連続大幅減少。
- 教育(82)は、大幅減少で3年連続減少。コース別では、(教育/教育科学)(105)はやや増加だが、他の2コースは大幅減少。
- 理工(83)は、大幅減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(先端エネルギーナノ工)(149)が大幅増加、(生命医化学)(101)は微増だが、他の7学科は減少で大幅減少が目立った。

<センター利用方式>

- 文(94)は、やや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(総合心理科学)(123)は大幅増加したが、他の2学科は減少。
- 法(75)は、系統への人気低下から大幅減少し、2年連続減少。2学科とも大幅減少。
- 総合政策(71)は、系統への人気低下から大幅減少し、2年連続減少。方式別では、<セ・数学併用型>(93)以外は大幅減少。
- 経済(78)は、系統への人気低下から大幅減少し、3年連続減少。全方式が大幅減少。
- 商(79)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。方式別では、<セ・数学併用型>(110)は増加したが、他の方式は減少。
- 社会(69)は、系統への人気低下から大幅減少し、3年連続減少。方式別では、<セ・数学併用型>(128)は大幅増加したが、他の方式は大幅減少。
- 人間福祉(73)は、系統への人気低下で2年連続大幅減少。3学科全てが減少し、(人間科学)(89)以外の2学科は2年連続大幅減少。
- 教育(70)は、大幅減少で2年ぶりに減少。3コース全てが減少し、特に(教育/初等教育)(55)は大幅減少。
- 国際(94)は、やや減少で3年連続減少。方式別では、<セ・3月>(66)が大幅減少。
- 理工(97)は、新規実施方式があったが、やや減少で前年度の反動による増減が継続。学科別では、(化学)(127)、(先進エネルギーナノ工)(119)が大幅増加。一方で、(数理科学)(63)は大幅減少。